

科目名		建築法規 I			
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	
対象学科		建築大工科	対象学年		1
必修・選択		必修	開講時期		前期
		単位数		時間数	
		32時間			
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。			
学習目標 (到達目標)		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		書名：図説やさしい建築法規・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	①建築基準法の概要 ②法令用語の読み方			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する分類・構成・形式を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
2	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕 ②模様替え、特殊建築物・指定工作物			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する条件・規制を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
3	建築手続き ①確認申請を必要とする建築物、 ②中間検査・完了検査、建築主事と ③特定行政庁・指定確認検査機関 ④建築主、設計者、施工者、建築主事等の役割			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～④の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
4	敷地・面積・高さ等の算定 ①建築物の敷地、敷地面積・建築面積・延べ面積、 ②建築物の高さ・建築物の階数			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
5	採光に関する基準 ①室内環境と安全、居室の採光・有効採光面積			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①の居室に採光の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
6	換気に関する基準 ①室内環境と安全、居室の換気、 ②アスベスト規制・シックハウスに関する基準			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の居室に換気の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
7	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ・床の高さ ②地階の居室の基準、共同住宅等の各戸の界壁に関する基準			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の条件・規制が理解でき計算ができ説明できる 準備学習：教科書①の予習	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験・出席率評価点の合計とする。 期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ること、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う	
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年携わる			

科目名		建築法規Ⅰ				
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		① 図説やさしい 建築法規 ・ 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	都市計画、道路に関する規定 (都市計画区域内の概要・道路の定義) ①都市計画制度の概要、 ②道路の種類、基準等 ③練習問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
2	用途地域に関する規定 (用途地帯の種類・建築物の制限等の規定) ①用途地帯の目的、建築物の制限が理解でき説明できる。 ②練習問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する目的・制限を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
3	面積の制限 (敷地に対する面積の制限・緩和の規定) ①容積率の規制・緩和、建ぺい率の限度と計算 ②練習問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する規制緩和、計算が説明できる 準備学習：教科書①の予習			
4	高さの制限 (道路、隣地境界に対する高さの制限・規定) ①道路、隣地境界に対する高さ・計算 ②用途地帯による高さ制限・計算 ③練習問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する制限、計算が説明できる 準備学習：教科書①の予習			
5	建築設備 ①建築設備の概要 ②練習問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
6	防火に関する基準 (防火、火災に関する構造基準) ①防火、火災に関する構造・設備の概要 ②延焼のおそれのある部分の計算 ③練習問題		防火、火災に関する構造・設備の概要が理解でき延焼のおそれのある部分が計算できる。 理解度のチェック、練習問題で確認。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意				
<p>期末試験・小テスト・平常点の合計とする。</p> <p>期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>		<p>建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う</p>				
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年携わる				

科目名		建築法規Ⅱ				
担当教員		西原 政宏		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		① 図説やさしい 建築法規 ・ 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	防火地域 ①防火地域（準防火地域）内に関する建築物の規定) ②22条地域、延焼のおそれのある部分について			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②防火地域内・準防火地域内における建築物の制限、22条地域、延焼のおそれのある部分のが理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習		
2	建築基準法、別表 ①基準法、別表1～4について説明。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：別表に示させた1～4の基準法・関連法が理解・説明できる 準備学習：教科書①、②の予習		
3	構造強度(木造) ①木造建築物の構造強度に関する規定。 ②柱・筋かい(耐力壁)の説明。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②木造建築物の柱の大きさ・筋かいの必要量が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習		
4	構造強度 (鉄骨造・鉄筋コンクリート造) ①S造・RC造の使用材料・強度・構造等			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①の使用材料・強度・構造等が確認、理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習		
5	耐火構造・防火区画等(耐火・準耐火建築物の防火区画) ①建物の耐火性能、用途・規模等による防火区画・種類			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②建物の耐火性能、用途・規模等による必要な防火区画・種類等が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末試験・小テスト・出席率評価点の合計とする。 期末試験70% 小テスト20% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ること、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う		
教員の経歴		設計事務所で建築設計・監理に7年従事				

科目名		建築法規Ⅱ			
担当教員	西原 政宏	実務授業の有無	○		
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。</p> <p>1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。</p> <p>2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。</p> <p>3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>書名：建築関係法令集（法令編） 発行：（株）総合資格学院（参考書：図説やさしい建築法規・学芸出版社）</p>				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	<p>避難施設等 （廊下・避難階段・排煙設備・非常用の照明・進入口）</p> <p>①廊下・階段等の必要な幅・種類・構造、 ②排煙設備・非常用の照明・進入口の設置基準、 ③上記構造の理解と計算。 ④練習問題</p>	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習</p>			
2	<p>特殊建築物等の内装 （制限を受ける特殊建築物・建築物の内装）</p> <p>①制限を受ける特殊建築物の用途・構造等、 ②内装材の種類等が ③練習問題</p>	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習</p>			
3	<p>建築士法に関する規定 ①建築士のできる設計・監理・業務</p>	<p>方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習</p>			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
<p>期末試験・小テスト・出席率評価点の合計とする。 期末試験70% 小テスト20% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>		<p>法の確認 チェック は、法の順、条項ではなく、関連する「法・令・告示」の全てを調べる必要がある。従って、その関連する条項を早く確認できる事が大切である。定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う</p>			
教員の経歴	設計事務所で建築設計・監理に7年従事				